

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 26 日現在

機関番号：33914

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K13490

研究課題名(和文)言語景観を教材とした社会文化的理解を目指す内容重視型日本語教育の研究

研究課題名(英文)The development of learning materials and courses of linguistic landscapes : The utilization of video resource / textbook in Japanese language education

研究代表者

磯野 英治 (Isono, Hideharu)

名古屋商科大学・国際学部・准教授

研究者番号：50720083

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、街中にある看板やポスター、ラベルやステッカーといった身近に存在する言語景観を活用した教育手法を開発し、カリキュラムの構築、教材の作成、授業実践による効果の検証を行った。主に上級日本語教育、異文化コミュニケーション、社会言語学の分野において、当該手法の活用が始まっている。また教材に関してはインターネット上に公開され、広く国内外での活用がされ始めている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、「言語景観を活用した日本語教育」について1科目、1コースとして成立する初めての教材としてビデオ教材の制作、および教科書の作成を行った。誰にでも利用できる革新的で汎用性のある教育・学習カリキュラムと教材は、授業実践の報告とともに公開しており、日本語教育界におけるカリキュラムの拡大と新しい幅を提供し、日本語学習者の日本語に対する社会文化的理解に寄与している。

研究成果の概要(英文)：This study involves the first ever attempt to develop learning materials (video resource/ text book) for a “course focusing on linguistic landscapes”, and providing a report of the course. This material was developed for Japanese language education and features regional and social changes in language. Taking advantage of the practical educational opportunities offered through this video, Japanese learners come to realize not only some characteristics of a Japanese language but also the role of linguistic landscapes as a constituent element in society. The method of publication on the internet and examples of its practical use in education are also reported.

研究分野：日本語教育学

キーワード：言語景観の日本語教育への活用 教材開発 社会文化的理解

1. 研究開始当初の背景

言語景観研究が社会言語学や地域研究を中心に広がりを見せる中、街中にある看板やポスター、ラベル、ステッカーといった身近にある言語景観を素材として、学習者が特徴的な日本語を通じて多様な社会的事象に気づき、かつ考察した結果に基づいて論理的に表現する力を獲得することを目的とした「言語景観を活用した内容重視の日本語教育」を先駆的に提案し、以下の研究を継続して行ってきた。

(1) 国内外（韓国中央大学校・大阪大学）での授業実践の報告

(2) 活用可能な言語景観の分類に関する理論研究と論文による公開

(3) 授業実践におけるカリキュラムの枠組み作成と論文による公開

(4) 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会と多言語化を関連させた上級日本語教育・日本語教育学研究用ビデオ教材『東京の言語景観－現在・未来－』の制作と公開（東京都アジア人材育成基金の助成による共同監修で、東京都庁ホームページにもリンクされており、現在 You Tube から公開、アクセス数は既に約 7000）

上記のこれまでに行ってきた研究テーマは、審査や査読のある国内外の学会や論文で多く公開され、東京都アジア人材育成基金などの外部資金にも採用されるなど、対外的な意義が認められてきた。本研究では上記の研究成果を生かし、日本語教育における CBI の分野において、言語景観を内容とした誰にでも利用できる体系的なカリキュラムと教材を開発することによって、日本語教育カリキュラムの拡大と充実を目指した。加えて、カリキュラムに沿って制作した教材をインターネット上に公開し、世界中の日本語学習・教育者に新たな機会を提供することで、学外・海外への成果の発信とオープン教育への貢献に繋げていく狙いがあった。

2. 研究の目的

国内外の日本語学習者と社会の多様化に伴って、四技能の言語的知識の獲得や場面別スキルの訓練だけではなく、学習言語を媒体として専門的な内容や批判的思考を育成する内容重視の言語教育（Content-based Instruction: CBI）が日本語教育でも注目され始めている。

本研究では、このような学界の状況や社会的要請に応えるべく、(1) 研究代表者が先駆的に取り組んでいる「言語景観を活用した内容重視の日本語教育」を体系的に発展させ、誰にでも利用できる革新的で汎用性のある教育・学習カリキュラムと教材を開発し、(2) 開発したこれらのコンテンツを誰にでも活用可能な形で公開して、日本語教育界におけるカリキュラムの拡大と新しい幅を提供するとともに、日本語学習者の日本語に対する社会文化的理解に寄与することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 理論研究

これまでに行ってきた「言語景観を活用した内容重視の日本語教育」の研究と実践の積み重ねを参照して、カリキュラムの内容を検討した。その上で、国内外で該当する言語景観データの収集を行い、整備・分類をして、教材を作成した。

(2) 実践研究

開発したカリキュラムと制作したビデオ教材を使用した教育実践、およびその分析・検証を行った。また開発したカリキュラム、授業実践例、制作したビデオ教材を Web 上に公開し、誰にでもアクセス可能な形にして、当該研究の情報公開と普及に努めた。

4. 研究成果

具体的な研究成果として、言語景観を教育で活用し、1科目、1コースとして成立する初のカリキュラム・教材を開発した。加えて、当該カリキュラム・教材を使用した授業実践を行い、その効果の検証を行った。具体的な内容を以下に挙げる。

表1 各回の内容

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
言語景観の概論 (定義・対象・ 観点)	公共表示と 民間表示の違い	音声と表記	使用文字の 多様性とその 効果	使用語彙の 多様性とそ の効果
第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
ピクトグラム・ 記号	正用と誤用	適切性・自然さ	役割・多様性	言語と経済
第11回	第12回	第13回	第14回	第15回
方言使用と都市・ 地方	外国人集住地域 と国際化・ 多民族化	電気・サブカルチ ャーなど特定分野 における街の表記	社会的背景や 使用意図	語用論的 使用

表2 ビデオ教材『言語景観で学ぶ日本語』(磯野・西郡 2019)

目的	① 国内外の上級日本語教育や日本語教育学、異文化コミュニケーション、社会言語学のための教材・研究用資料としての活用 ② 国内外の日本語の言語景観の把握
内容	① 言語景観に関する概説 ③ 公共表示と民間表示の違いや観点 ④ 音声学・音韻論や語用論など、分野ごとに分類された言語景観の概論
活用場面 映像の時間	毎回の授業の冒頭、あるいは途中でその日のテーマに沿ったショートビデオ (3-5 分) × 全 15 回 : 1 本の教材ビデオとして約 32 分

表3 教科書『言語景観から学ぶ日本語』(磯野 2020)

目的	① 言語景観を活用した 1 科目、1 コースとして成立する学習書として作られた書籍であり、一言語としての「日本語」を段階的に学べるように構成 ② 上級日本語教育や異文化コミュニケーション、社会言語学での活用
内容	・序章 言語景観の勉強を始める皆さんへ—言語景観とは何か ・レッスン 1~15 (各レッスンは「考え方」「実践篇」「問題を解くヒント」「応用篇」で構成され、授業カリキュラムやビデオ教材と連携) ・終章 言語景観研究のこれから
活用場面	毎回の授業 (計 15 回) で 1 レッスン

上記のほか、授業実践とその効果についても論文の形で公開している (情報公開については、名古屋商科大学磯野英治研究室 <http://opinion.nucba.ac.jp/~isono/> を参照のこと)。

以上のように、本研究の成果は基礎的調査 (データ収集と分類)、それに基づく教材開発 (ビデオ教材・教科書)、および教材の活用と検証 (授業実践) までを行い、これらを公開したことである。今後は本研究で行った「言語景観の教育への活用」について、情報共有を図りながら学習や在学の段階を視野に入れた研究を行っていきたいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 磯野英治	4. 巻 第67輯
2. 論文標題 言語景観の教材化と授業実践 - 異文化コミュニケーション科目におけるビデオ教材・教科書の活用 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本語学研究	6. 最初と最後の頁 107-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14817/jlak.2021.67.5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 磯野英治・西郡仁朗	4. 巻 第39号
2. 論文標題 ビデオ教材『言語景観で学ぶ日本語』のシナリオの公開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本語学研究	6. 最初と最後の頁 137-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 磯野英治・上仲淳・田中真衣	4. 巻 第38号
2. 論文標題 電気とサブカルチャーの街『名古屋大須』の言語景観 - 大阪日本橋との比較研究 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本語学研究	6. 最初と最後の頁 75-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 磯野英治・西郡仁朗	4. 巻 166号
2. 論文標題 ビデオ教材「東京の言語景観 - 現在・未来 - 」の公開と教育実践	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本語教育	6. 最初と最後の頁 108-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20721/nihongokyoiku.166.0_108	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松崎真日・磯野英治・吹原豊・助川泰彦	4. 巻 第37号
2. 論文標題 韓国安山市「多文化通り」の多言語景観の特徴とその背景	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本語研究	6. 最初と最後の頁 105-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 磯野英治	4. 巻 第52号第5分冊 (コミュニケーション)
2. 論文標題 日本語教育に活用可能な言語景観の分類に関する考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本語学論説資料	6. 最初と最後の頁 20-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 磯野英治
2. 発表標題 言語景観の教材化と教育実践 - ビデオ教材・教科書の活用について -
3. 学会等名 韓国日本語学会2020年度第41・42回統合国際学術大会 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 磯野英治
2. 発表標題 多言語景観を活用した日本語教育 - 教材開発と教育実践について -
3. 学会等名 国立国語研究所 令和元年度日本語教師セミナー (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 磯野英治
2. 発表標題 言語景観を活用した日本語授業の意義・位置づけ・方法
3. 学会等名 韓国日語教育学会2019年度第35回国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 磯野英治・西郡仁朗
2. 発表標題 ビデオ教材「言語景観で学ぶ日本語」の制作と公開
3. 学会等名 日本語教育学会2019年度秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 磯野英治・西郡仁朗
2. 発表標題 言語景観を活用したビデオ教材の制作における理論的枠組みと内容について
3. 学会等名 日本語教育学会2018年度春季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吹原豊・松崎真日・磯野英治・助川泰彦
2. 発表標題 インドネシア料理店運営者から見た外国人集住都市安山 - 聞き取り調査の結果から -
3. 学会等名 2018年度異文化間教育学会第39回年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松崎真日・磯野英治・吹原豊・助川泰彦
2. 発表標題 多言語・多文化先進地域の言語表示 - 韓国安山市多文化通りの言語景観が示す多言語・多文化社会の実際 -
3. 学会等名 International Conference of Japanese Language Education 2018 (Venezia 2018 ICJLE) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 磯野英治
2. 発表標題 言語景観を活用したビデオ教材の制作におけるシナリオについて
3. 学会等名 韓国日本語学会第38回国際学術発表大会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 磯野英治・上仲淳・田中真衣
2. 発表標題 国際化する大阪道頓堀の多言語景観の経年調査
3. 学会等名 日本語学会2018年度秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 磯野英治・上仲淳・田中真衣
2. 発表標題 名古屋の電気とサブカルチャーの街「大須」の言語景観 - 大阪日本橋との比較研究 -
3. 学会等名 日本語学会2017年度春季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吹原豊・松崎真日・磯野英治・助川泰彦
2. 発表標題 エスニックレストランから見る外国人集住都市の成り立ち - 韓国安山市多文化通りのインドネシア料理店の調査を通して見えるもの -
3. 学会等名 2017年度異文化間教育学会第38回年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 磯野英治・吹原豊・松崎真日・助川泰彦
2. 発表標題 言語景観から読み解く外国人集住都市韓国安山市の諸特徴
3. 学会等名 韓国日本語学会第36回国際学術発表大会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 磯野英治
2. 発表標題 Research on Linguistic Landscape for Japanese Language Education
3. 学会等名 ASIAN COMMUNITY LECTURES - Development, Cultural, and Social Change in Asia - (招待講演)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 磯野英治	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 160
3. 書名 言語景観から学ぶ日本語	

1. 著者名 磯野英治・西郡仁朗	4. 発行年 2019年
2. 出版社 You Tube	5. 総ページ数 32分
3. 書名 ビデオ教材 言語景観で学ぶ日本語 https://www.youtube.com/watch?v=qB0-eSC_yUQ	

1. 著者名 井上史雄・助川泰彦・吹原豊・松崎真日・磯野英治・上仲淳・田中真衣ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 くろしお出版・公益財団法人 日本のローマ字社	5. 総ページ数 178
3. 書名 ことばと文字 11号	

1. 著者名 磯野英治・上仲淳・田中真衣ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 韓国文化社	5. 総ページ数 368
3. 書名 韓中日の言語を通じて探った三国の社会と文化（叢書9）	

1. 著者名 李舜炯・中井精一・ダニエルロング・磯野英治ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 中文出版社	5. 総ページ数 275
3. 書名 都市空間を編む言語景観	

〔産業財産権〕

〔その他〕

磯野英治研究室

<http://opinion.nucba.ac.jp/~isono/index.html>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------